

第 258 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2012 年 7 月 5 日(木) 17 時 30 分~18 時 30 分

場 所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 久保寺 登 氏(活性型ビタミン D 誘導体研究所・所長)

タイトル: 活性型ビタミン D 誘導体の創薬研究

ビタミンDの研究は、医薬の面からは三つの節目として捉えられる。まず黎明期では、ビタミンDの発見と抗クル病因子としての生理的意義付けがあった。そして第二の節目では、ビタミンDの体内での活性化経路の解明と活性本体の発見があり、病態生理学の知識が飛躍的に拡大し、活性型ビタミンDとそのプロドラッグの臨床応用の道が拓けた。さらに第三の節目は、分化誘導作用の発見で、骨・Ca 代謝に関与しているだけと思われていた活性型ビタミンDに、生理作用の多様性が見出され、それらが臨床上有用なことから、誘導体を合成して生理作用に強弱を持たせることで、合目的な医薬を開発する機運が高まった。現在は第三の節目で開発された医薬品が、乾癬や二次性副甲状腺機能亢進症の治療薬として役立っている。昨年、骨粗鬆症治療薬として発売されたエルデカルシトールもその仲間入りをした。各節目を医薬の観点から概説するが、特にエルデカルシトールが生まれてきた経緯を詳細に紹介したい。

学歴

1970年(昭和45年)長野県松本深志高等学校卒業

1975年(昭和50年)東北大学薬学部卒業(薬品合成化学教室・高野 誠一教授)

1977年(昭和52年)東北大学大学院薬学研究科前期課程修了(同上)

1982年(昭和57年)東北大学薬学部薬学博士(高野 誠一教授)

職歴

1977年(昭和52年)中外製薬株式会社総合研究所研究員

1995年(平成 7年) 中外製薬株式会社研究所主席研究員

2000年(平成12年)中外製薬株式会社製品企画部部長

2005年(平成17年)中外製薬株式会社骨領域部長

2011年(平成23年)活性型ビタミンD誘導体研究所 所長

担当:硬組織疾患制御再建学講座 高橋 直之